

## 宿題委員会報告

七月一日、午前一〇時三〇分より、明治大学大学院第一会議室にて開催。出席委員・大川健嗣・柿崎稔・蓮見音彦・長谷川昭彦・似田貝香門・安原茂。とくに大川委員には東北地区研究会の内容報告を依頼し出席をお願いした。また、東敏雄運営委員は、当日午後に予定している運営委員会に出席できぬため、宿題委員会に参加された。当日の委員会で討議された内容は、概略つぎのような諸点である。

### 一、各地区研究会の報告と課題の検討

関東地区（第三回）、東北・関西地区（それぞれ第一回）の研

究会の概要について長谷川・島崎委員（関東）大川委員（東北）および柿崎委員（関西）から報告された。これらの報告にもとづいて、共通課題「農村自治―史的展開と現状―」をめぐって委員の間で意見の交換がなされた。しかし、宿題委員会として統一的な見解を示すまでにはいたらなかった。結論として、本年度は、前年度の課題であった「村落生活の変化と現状―その主体的再編成をめぐって―」の連続として「農村自治」の問題を自由に進め、次年度に向けて問題をしばってゆくことが考えられる、というのがほぼ共通した理解であった。

### 二、共通課題の報告者の選定および大会報告・討議の進め方について

◎報告者の選定、予め事務局において、七月一日を〆切として報告者を募集していたのであるが、その結果にもとづいて検討した。応募者は五名でいずれも「自由報告」を希望しているものであった。しかし、この五名とも、表題・要旨などからして、いずれも「農村自治」を対象としているものであったため、本年度大会では、従来の自由・課題別の報告をなくして、共通課題に即した右の五人の応募者の報告を設定する案が採択された。なお、これら五人の報告の内容と、これまでの各地区の研究会の動向等を勘案して、さらに「農民運動」「地域農政ないし自治体農政」の立場からの報告のあることが望ましい、という結論から、そうした視点からの報告者について交渉することにした。

◎大会報告・討議の進め方について、大会プログラムの最終決定は、次回運営委員会（九月九日を予定）で行なう予定であるが、宿題委員会としては、表題の件に関して以下のような原案を作成

し、運営委員会に諮ることとした。

(第一日目) 研究発表(五、六名)

(第二日目) (1)各地区の研究会の報告・討論の要点紹介(宿題委員)

(2)司会者団による討論の進め方についてのコメント

(3)討論

以上が宿題委員会において協議された内容のあらましである。

(宿題委員・柿崎記)